

三方五湖自然再生協議会

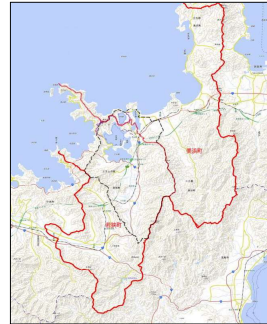
令和7年度の活動結果および令和8年度の事業計画

(目次)

湖岸等の自然再生事業	P01-03
湖と田んぼのつながり再生事業	P04-05
侵略的外来生物への対策事業	P06-08
三方湖のヒシ対策事業	P09-12
環境に優しい農法事業	P13-16
三方五湖を活用した環境教育事業	P17-20
シジミのなぎさ再生事業	P21-25

三方五湖自然再生協議会

湖岸等の自然再生事業



自然護岸再生部会

[構成員]

部長: 吉田丈人(東京大学)

鳥浜漁業協同組合、海山漁業協同組合、南西郷漁業協同組合、福井県内水面漁業協同組合連合会、福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会、日本野鳥の会福井県、田原大輔(福井県立大学)、個人部会員、美浜町、若狭町、福井県 等

※事務局: 福井県エネルギー環境部自然環境課

R7年度の活動結果(総括)

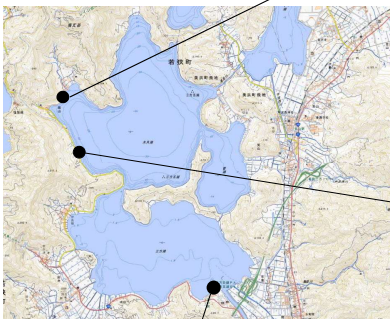
項目	日程	内容等
自然護岸再生	12~3月	<ul style="list-style-type: none"> 水月湖での浅場造成 172.5m²(195m³) (12月) 担当: 福井河川国道事務所、若狭町建設課、県自然環境課(部会事務局) ※福井河川国道事務所による国道27号歩道工事での土砂を搬入して整地 水月湖での石倉漁礁8基設置(2月) 担当: 県水産課、県自然環境課(部会事務局) 三方湖での浅場造成 約310m³(3月) 担当: 若狭町建設課 ※若狭町建設課での浚渫工事の土砂を活用 三方湖の石倉漁礁設置場所(2か所)で環境DNA調査
研修会実施	令和7年 11月3日(月・祝)	<ul style="list-style-type: none"> 「小さな自然再生の研修会」 河川における、魚類をはじめとした生物に配慮した水辺の「小さな自然再生」の手法について、座学と現地(はず川・串小川)で学ぶ機会を開催
部会の開催	令和7年 7月14日(月) 11月19日(水) 令和8年 3月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 部会活動、部会員の取組みに関する情報共有や意見交換 「自然護岸再生の手引き」の改訂に向けた議論

R7年度の活動結果(自然護岸再生)

石倉漁礁を設置(8基)



浅場造成を実施(172.5m²)



R7 実施場所

浅場造成を実施(約310m³)

R7年度の活動結果(自然護岸再生)

- 自然護岸再生後の「生物多様性への効果」のモニタリングとして、環境DNAを用いた効果検証を実施。
- 過年度に実施した石倉漁礁設置場所と、同一の湖の他地点とで採水をし、環境DNA調査をして比較。



R7 サンプル採取場所

※1 「種名」は、BLAST解析にて「相同性の高い生物種」の第1位を原則的に使用
相同性の率が同じものが複数ある場合は候補を比較して判断。

※2 ゲンコウウナを除くフナ属魚類(ギンブナ、キンブナ、ニゴブナ等)を種レベルで
識別することは現状困難のため、「フナ類」にまとめる。

結果		環境DNA調査(R7年度)				
		サンプル採取場所	田井(石倉漁礁あり)	生倉(石倉漁礁あり)	海山(石倉漁礁なし)	成出(石倉漁礁なし)
環境DNA分析のブライマイの種類	魚類	種数	6種+2	10種+1	12種+2	4種
		ウロハゼ	○	○	○	○
		オйкаワ		○		
		コイ	○		○	
		サッパ		○	○	
		シマイサキ			○	
		スズキ	○	○		○
		スダレウロハゼ		○	○	
		セシボラ種の一つ			○	
		タモロコ		○	○	
ニホンウナギ		○				
ヌマチチブ	○	○	○			
フナ類	○	○	○			
ボラ	○	○	○			
マハゼ			○			
節足動物	テナガエビ属の一つ	○				
	サンカクフジツボ	○	○	○	○	
環形動物		環境DNAの検出なし				

R7年度の活動結果（自然護岸再生）

- 生倉（石倉漁礁あり）の地点でのみ検出された種・・・ニホンウナギ、オイカワ
- 田井（石倉漁礁あり）の地点でのみ検出された種・・・テナガエビ属
- 生倉の地点は、内水面漁連が過年度に実施した生物調査（石倉漁礁モニタリング）と同地点。
→ ウロハゼ、ヌマチチブ、フナ類、ニホンウナギなどは、生物調査でも環境DNA分析でも確認・検出。
- 「石倉漁礁のある所ほど種数が多く検出される（多様な種が検出される）」わけではない。



- ◇石倉漁礁周辺にいたりと思われる種について、生物調査より多く検出が可能。
- ◇環境DNAの結果から見ても、石倉漁礁がニホンウナギやテナガエビ類の利用環境として機能している可能性が示唆。一方、石倉漁礁の設置地点ごとに、検出される種には差が生じる。
- ◇環境DNA分析の結果は、生物調査で確認した種がある程度網羅できていることから、自然護岸再生実施後の効果を見る調査手法の一つとして有効と思われる。（調査としても簡便）
- ◇自然護岸再生の効果を見る場合、検出種「数」によるよりも、「石倉漁礁の場所では検出されるがコンクリート護岸沿いではされない」などの「在・不在」で評価するのが適切？

5

R7年度の活動結果（小さな自然再生の研修会）

- 水辺の「小さな自然再生」とは
 - ・河川等での、「連続性の回復（落差の解消等）」や「生物の生息・繁殖環境等の創出」等を目的に行う、比較的小規模での自然再生
 - ・小規模な石組みや簡易魚道など人の手で作業できるものもあり、多様な主体が参画し協働できる取組み
- 研修会実施の目的
 - ・部会作成の「自然護岸再生の手引き書」の一部改訂を進める中で、湖での自然護岸再生のほか、はず川等の周辺河川において自然再生等についても加筆。
 - 魚類の遡上環境の改善を中心に、河川での「小さな自然再生」とはどういったものか、三方五湖周辺ではどのような方法が取れるのかなどについて専門的知見を学ぶ。

6

R7年度の活動結果（小さな自然再生の研修会）

●研修会の内容

【現地説明】

- ・はず川と串小川にて、河川の環境の現状や課題の確認、小さな自然再生の手法について提案
- （①はず川 上古橋周辺、②はず川 落合堰周辺、③串小川 下流（落差がある場所））

【座学】

- ・サケの生態、はず川流域での遡上状況について
- ・現地視察を踏まえた、はず川流域での「小さな自然再生」の手法に関する意見交換

7

R7年度の活動結果（小さな自然再生の研修会）



2

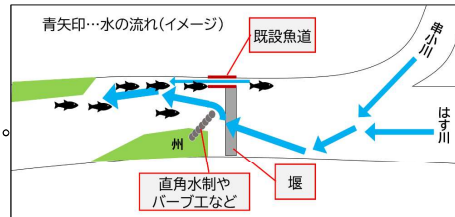
8

R7年度の活動結果（小さな自然再生の研修会）

●専門家からの河川での「小さな自然再生」アイデア例

【はす川 落合堰周辺】

- ・既設魚道にサケ等の魚類を誘導するために、パーブエや直角水制で水の流れを作る。
- ・取り外し式の簡易魚道を時期限定で設置する。



【串小川 落差周辺】

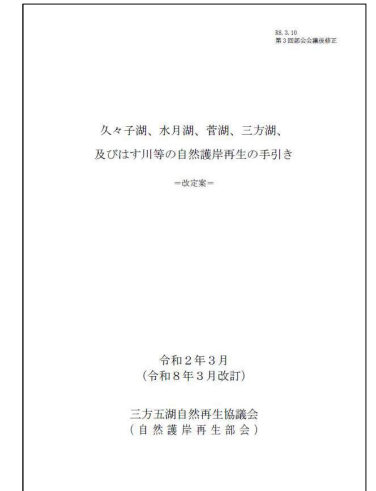
- ・浚渫時に滞筋を作り、魚道側に水を流す。
- ・繁茂したツルヨシを刈って魚道方向に“水みち”を作る。
- ・魚道と反対側にパーブエを作り、“水みち”によって繁茂した植生を自然の力で削っていく。



9

R7年度の活動結果（手引きの改訂）

- はす川等の河川での自然再生の章を具体化（小さな自然再生の手法の追加など）
- 手引き初版の作成以降に実施された“自然護岸再生”について、一覧表・マップ化
- その他、手引き初版以降に得られた知見等をもとにした追記・修正



10

実施計画—事業成果（R7年度）の評価

実施計画での目標(長期目標)	事業成果(令和7年度)
人工護岸のうち、自然再生を優先すべき場所で自然再生護岸を整備する。	<自然護岸再生の整備> R7.12 水月湖 浅場造成 172.5m ² (195m ³) (福井河川国道事務所、若狭町建設課、県自然環境課)
	R8.2 水月湖 石倉漁礁 8基 (県水産課、県自然環境課) R8.3 三方湖 浅場造成 約310m ³ (福井河川国道事務所、若狭町建設課、県自然環境課)
	【参考】R4年度(※第2期三方五湖自然再生事業実施計画)以降 R4年度:3か所(久々子湖浅場造成、水月湖浅場整地、三方湖石倉漁礁) R5年度:2か所(水月湖浅場造成、三方湖石倉漁礁) R6年度:3か所・R6.11 久々子湖 浅場造成／・R7.3 三方湖 浅場造成 ・R7.3 水月湖 浅場整地
	累計での自然護岸再生実施数は、実施計画の目標を超える見込み。

●「第2期 三方五湖自然再生事業実施計画」における事業推進に関する数値目標(短期～中期)

数値目標	目標値(R4～R8)
自然護岸再生検証実施場所	10か所(2か所/年×5年) ※R8年度末の累計箇所数

11

R8年度 事業計画

第2期 事業実施計画 【中期目標(R6～R8)】

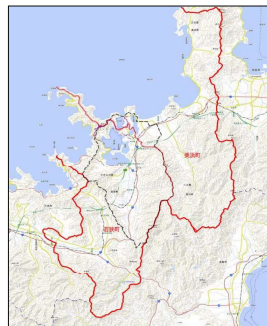
- 「自然護岸再生の手引き書」に記載された各護岸モデルの実証。課題の抽出や技術を集積し、手引書の改定等を行う。護岸再生モデルの実施場所のマップ化を完成。

項目	日程	内容等
部会	年3回程度	・自然護岸再生実施、部会員の取組みの計画、実績の確認 ・R7年度研修会の内容も踏まえた河川での小さな自然再生の検討
自然護岸の設置等	随時	・石倉漁礁の設置および浅場造成 ・自然護岸再生の効果検証、モニタリング等

12

三方五湖自然再生協議会

湖と田んぼのつながり再生事業



湖と田んぼのつながり再生部会

[構成員]

部会長：青海 忠久(ふくい水産振興センター長)

副部会長：富永 修(福井県立大学教授)

鳥浜漁業協同組合、海山漁業協同組合、美しい鳥浜を創る会、板場網枝(向笠の農業者)、石地優(気山の農業者)、三浦 正親(成願寺の農業者)、福井県

※事務局：若狭町環境安全課

R7年度の活動結果

□ 活動写真

・前日準備



・前日準備



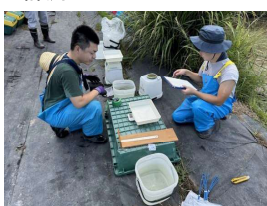
・取り上げ作業



・魚種選別



・計測



・放流



R7年度の活動結果(総括)

項目	日程	内容等
部会(第1回)	5月28日(火)	育成田の実施場所、手法、役割分担等を確認
部会(第2回)	3月11日(水)	育成田の取り組み状況報告、研究成果発表
育成田の管理、採卵、ふ化、育成、調査等の各作業	通年	シュロを使用しての採卵作業 水槽を使用してのふ化作業 育成田での稚魚育成 稚魚の育成状況の確認調査等

R7年度の活動結果

□ 部会の成果

- 水田養魚に取り組んでいる魚種(タモロコ)について、今年も水槽内での採卵に成功した。これを休耕田で育成し、267匹(途中採捕92匹、取上げ175匹)を放流することができた。
- 今年度も一部の休耕田でアゾラ・クリスタータ(アカウキクサ類)が発生したが、防鳥ネットの外周に繁茂する程度であり、13,000匹を超える稚魚の育成に成功した。

年度	収容数(匹)	放流数(匹)	取上げ率
R7	78,838	35,216	44.5%
R6	231,100	36,088	15.6%
R5	307,420	69,202	22.5%
R4	354,584	89,024	25.1%

R7年度の活動(「特定外来生物」アゾラ・クリスタータの除去)

除去作業

・令和7年6月6日(金)および令和7年7月3日(木)
海山漁協、事務局で除去作業
防鳥ネットの外周に繁茂していた。

・令和7年9月4日(木)
稚魚取り上げを実施。外来種アゾラ・クリスタータの繁茂は見受けられなかった。13,000匹を超える稚魚の取上げができた。



実施計画—事業成果(R7年度)の評価

実施計画での目標 (長期目標)	事業成果(R7年度)					
	項目\年度	H25	R4	R5	R6	R7
① 水田でフナ、コイをより大きく育てる技術を確認し、水田協力者を増やすことによって、他地域からの種苗放流(フナ)に頼ることなく、地域固有系統の保全と自然再生を実現する。	実施育成田数	4	22	21	19	9
	面積(m ²)	5,196	26,987	27,429	33,907	12,381
	放流数(匹)	10,990	89,024	69,570	36,088	35,216
② 新たに導入する在来魚の水田養魚を実用段階に移行し、在来魚種の三方五湖系統を守りながら漁業者所得の向上に資し、水田養魚を核とした地域経済の循環の基盤が確立できる。	<ul style="list-style-type: none"> 近年は育成田数の減少に伴い放流数も減少傾向にあるが、昨年度から育成田数が半分以下に減少したにもかかわらず、放流数はわずかな減少に留まり、安定した育成の成果を上げている。 自然放流(取り上げ計測無し)の水田もあるため、実際は数値以上の放流数である。 実施育成田数を増加させることができれば、地域固有系統の保全を図ることができると考えられる。 					

R8年度 事業計画

第2期 事業実施計画

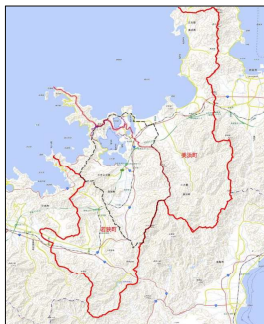
【中期目標(R6~R8)】

○「稚魚育成マニュアル」に記載された育成方法の検証によりフナ、コイをより大きく育てる技術を集積するとともに、課題を抽出して改善方法を検討してマニュアルの改訂等を行う。水田養魚を他にPRできるような看板を作成して協力田に設置する。
新たに水田養魚に取組む在来魚種について、多様な主体の参加を得て試験飼育繁殖に取り組む。

項目	日程	内容等
部会	4~5月頃	育成田の実施場所、手法、役割分担等を確認
部会	2月頃	R8年度の実績とR9年度事業について
部会	必要に応じて	研修・講習等
採卵、ふ化、育成、調査、検証等の作業	通年	フナ、コイに加えて、タモロコの育成に引き続き取り組む

三方五湖自然再生協議会

侵略的外来生物への対策事業



外来生物等対策部会

[構成員]

部会長：富永修(福井県立大学)

鳥浜漁業協同組合、海山漁業協同組合、南西郷漁業協同組合、ハスプロジェクト推進協議会、NPO法人世界に誇るラムサール湿地三方五湖を育む会、吉田丈人(東京大学)、西廣淳(国立環境研究所)、西原昇吾(中央大学)、加藤義和(名古屋大学)、福井県(エネルギー環境部自然環境課、里山里海湖研究所、海浜自然センター、農林水産部水産課、内水面総合センター)、美浜町住民環境課、若狭町農林水産課

※事務局:若狭町環境安全課

R7年度の活動結果(総括)

項目	日程	内容等
かご網・定置網の設置	通年	年間を通じた捕獲調査と防除
防除イベントの開催	4~10月	地域住民参加型駆除活動

R7年度の活動結果

□ 日程

- ・令和7年 4月25日(金)第1回部会 今年度の計画
(モニタリング調査、ヒシ対策)
- ・ 5月22日(木)ワナの設置(部会員活動)
- ・ 5月25日(日)ワナの回収(一般参加)
- ・ 7月16日(水)第2回部会 ヒシ対策事業進捗報告等
- ・ 11月19日(水)第3回部会 今年度の事業経過
ヒシ対策事業報告
- ・令和8年3月12日(木)第4回部会 今年度の事業報告
・次年度の事業計画

R7年度の活動結果 ワナの設置 5月22日(木)



ワナの設置(三方湖)①



ワナの設置(三方湖)②



ワナの設置③



ワナの設置④

R7年度の活動結果 ワナの設置 5月22日(木)

○ワナ設置個数 46個

三方湖 35個
 (生倉 5個、成出 5個、イベント用 25個)
 菅湖 5個
 水月湖 3個
 久々子湖 3個

R7年度の活動結果 ワナの回収 5月25日(日)



ワナの回収



計測会場

R7年度の活動結果 ワナの回収 5月25日(日)



カメの計測

○参加者 24名(7世帯)
 ○関係者 15名
 ○カメの捕獲数 13匹
 イベント会場 4匹
 生倉 3匹
 成出 0匹
 水月湖 0匹
 菅湖 1匹
 久々子湖 5匹

R7年度の活動結果 (三方五湖付近の外来生物捕獲数)

生物名 年度	ブルーギル	オオクチバス	ウシガエル		ミシシッピ アカミミガメ	アメリカ ザリガニ	カムルチー	小計
			成体	幼体				
H26	5,327	27	169	1,462	60	2		7,047
H27	1,954	29	200	184	39	18		2,424
H28	1,395	7	76	52	204	30		1,764
H29	5,135	25	66	30	268	2		5,526
H30	748	19	0	0	235	0		1,002
R1 (H31)	1,985	14	11	30	488	2		2,530
R2	167	5	24	152	453	5		806
R3	510	6	20	111	473	216		1,336
R4	87	0	17	747	390	42	11	1,294
R5	85	1	2	20	328	1	23	460
R6	18	1	9	1	1,126	7	52	1,214
R7	80	0	5	5,600	498	90	40	6,313
小計	17,491	134	599	8,389	4,562	415	86	25,403

- 令和6年度までは海山漁協育成田での養魚取上げの際にウシガエルの重量測定をしていなかったことから捕獲数に幼体数を含めていないが、多数の幼体が確認された。
- 令和7年度はウシガエルについても重量測定等を行ったことから幼体数を含めている。

実施計画—事業成果（R7年度）の評価

実施計画での目標 （長期目標）	事業成果（R7年度）
防除水準を基に、外来生物の防除を実施することにより湖などの生物多様性が保たれる	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた捕獲による防除と駆除イベントの開催による周知を行った。 5月実施のアカミミガメ捕獲では福井テレビの取材があり、外来生物駆除の取組みについて広報することができた。

R8年度 事業計画

第2期 事業実施計画 【中期目標（R6～R8）】

- 被害状況を基に効果的な防除対策を検討し、効率的な防除方法を決定して実践する。

項目	日程	内容等
かご網・定置（袋）網の設置	通 年	年間を通じた捕獲調査と防除
駆除イベントの開催	4～10月	地域住民参加型防除活動



三方五湖自然再生協議会

三方湖のヒシ対策事業

外来生物等対策部会

[構成員]

部会長: 富永修(福井県立大学)

鳥浜漁業協同組合、海山漁業協同組合、南西郷漁業協同組合、
NPO法人世界に誇るラムサール湿地三方五湖を育む会、富永修(福井県立大学)、
吉田丈人(東京大学)、西廣淳(国立環境研究所)、
福井県(エネルギー環境部自然環境課、里山里海湖研究所、海浜自然センター)、
美浜町住民環境課、若狭町(環境安全課、農林水産課) ほか

※事務局: 若狭町環境安全課



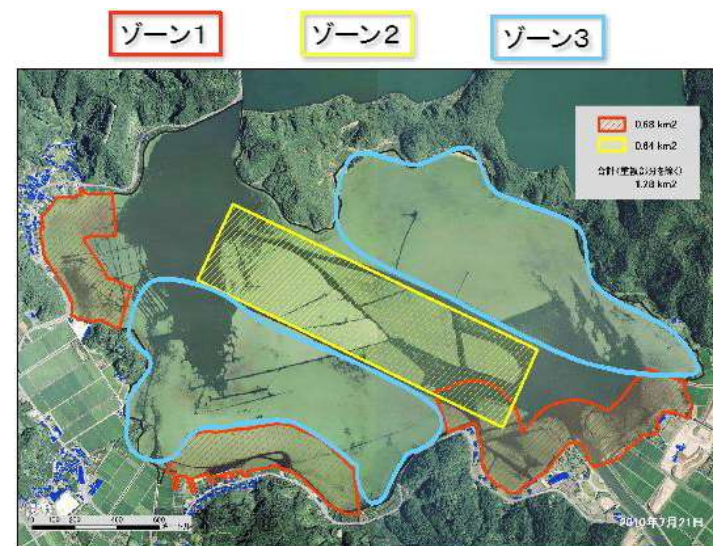
R7年度の活動結果

項目	日程	内容等
ヒシ状況のモニタリング	5月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ヒシの生育状況の確認(ドローン撮影、湖上調査等) 三方湖の塩分濃度の確認
ヒシ抜取り等	6月～7月	適正な管理のための抜取り・回収 ※抜取り作業は、湖面にヒシの展葉が確認された時期以降、発生状況を踏まえて開始
部会での共有・報告	①令和7年 7月14日(月) ②令和7年 11月19日(水)	①作業1期間目の進捗報告、2期間目の方針や進捗の共有 ②作業実施結果の報告

R7年度の活動結果

作業期間	ヒシ抜取り作業	モニタリング等
予備調査 (5/9～6/4)	—	5/15 湖上調査 6/4 ドローン調査
1期間目 (6/12～6/27)	・レーキ等での抜取り作業(合計28.5艘) ◆実施場所:ゾーン1(ヒシが疎に見られる場所)	6/30 ドローン調査 7/2 湖上調査 7/12 湖岸現地踏査
2期間目 (7/14～7/24)	・レーキ等での抜取り作業(合計18艘) ◆実施場所:ゾーン1(一部)、はず川内(一部)(ヒシが疎に見られる場所)	7/31 湖上調査

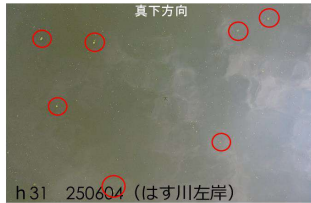
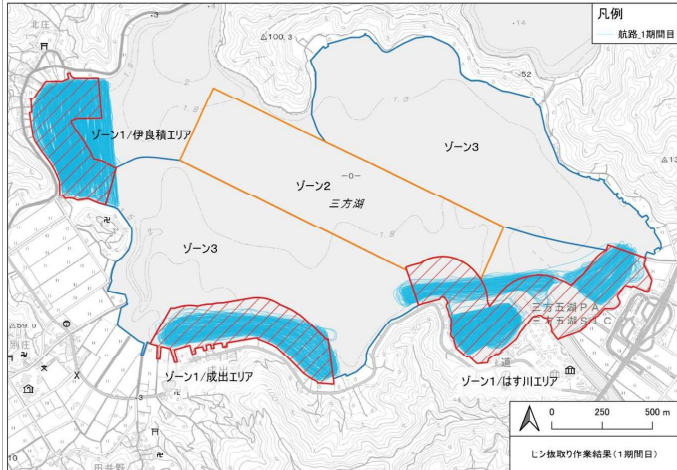
※今年度もヒシの生育が少なく、1期間目の着手時から作業をゾーン1のみとし、ワイヤーは使用せずにレーキ等を用いて手作業で抜取り。
2期間目も、ヒシの発生状況を湖上・空中から確認の上、ゾーン1の一部に限って手作業で抜取り(ゾーン2・3での作業は実施せず)。



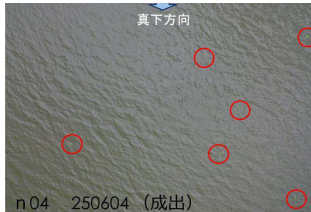
【抜取り作業場所の考え方】
ゾーン1(68ha)とその周辺部を含めた75haを優先的に実施

1期間目の作業 … 令和7年6月12日～6月27日

1期間目の抜取り実施前のモニタリングでは、ゾーン1の各地点でヒシの展葉が確認された



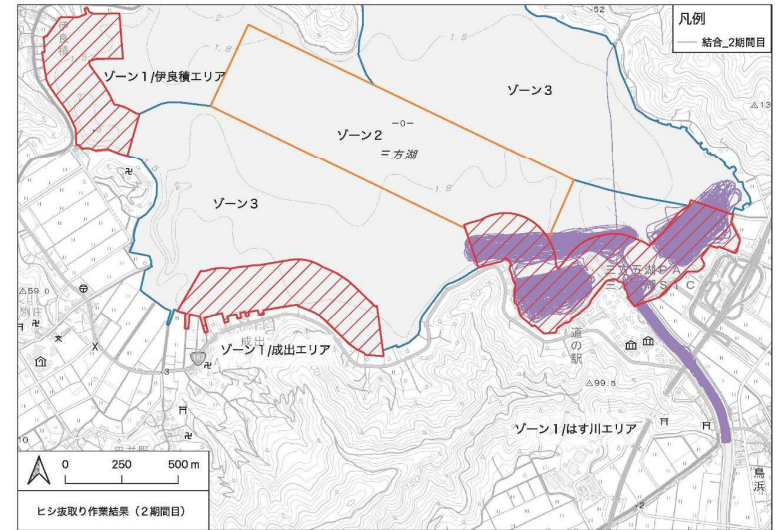
↑ 6月4日 はず川左岸 ドローン写真
浮葉あり



↑ 6月4日 成出 ドローン写真
浮葉あり

2期間目の作業 … 令和7年7月14日～7月24日

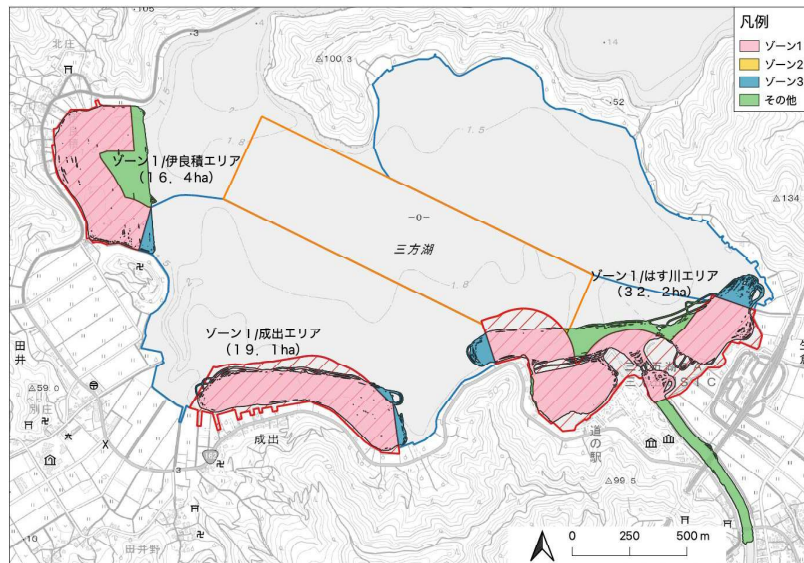
湖上、ドローン調査でヒシが疎に確認されたゾーン1のエリアと、はず川内にてヒシ抜取りを実施



2期間目 ヒシ抜取り作業の結果(航路図)

R7年度の活動結果 (ヒシの抜取り作業範囲)

抜取り作業面積 67.8ha



R7年度の活動結果 (ヒシの繁茂状況)

ヒシ群落の面積：なし



R6年度の活動結果 (ヒシの繁茂状況)

参考

ヒシ群落の面積：なし



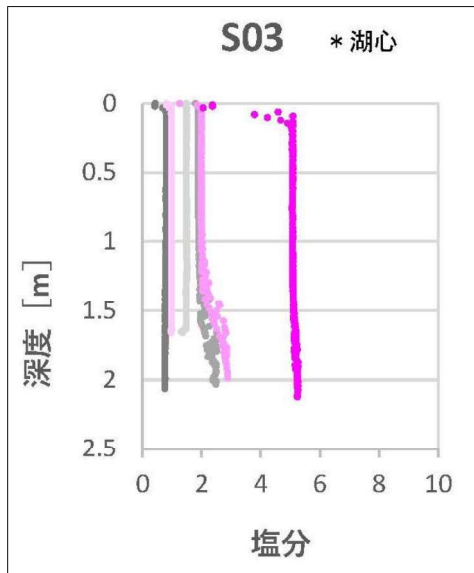
R7年度の活動結果

三方湖のヒシの分布変化



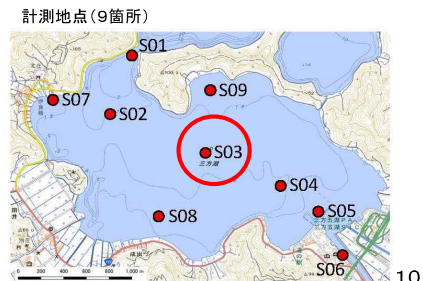
9

湖水の塩分濃度について①



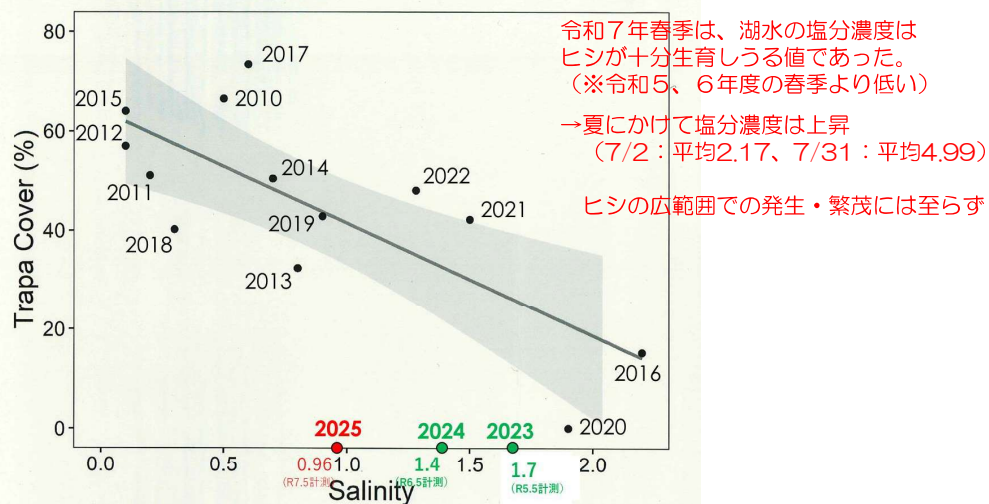
塩分濃度 三方湖湖心...平均**0.96**(最大0.99)
(春季) ※昨年同時期の湖心濃度(平均)...1.4

- 塩分 (R6. 5. 10)
- 塩分 (R6. 6. 25)
- 塩分 (R6. 7. 25)
- 塩分 (R7. 5. 15)
- 塩分 (R7. 7. 2)
- 塩分 (R7. 7. 31)



10

湖水の塩分濃度について②



湖心における春季塩分濃度と秋季ヒシ被覆率の関係

※県里山海湖研究所 宮本研究員より提供

11

R7年度のまとめと課題

【まとめ】

- 採取作業は、ゾーン1において、ヒシが少ない状況でできるだけ除去し、低密度化を図ることを念頭に、モニタリングを行いながら実施した。
→環境条件と採取作業により、ゾーン1でのヒシは低密度になってきていると考えられる。
- ヒシによる生態系機能も考慮し、ゾーン2・ゾーン3の採取はなし。
(三方湖からのヒシの根絶を目指すものではない)
- 令和7年度の春季は、前年度よりヒシの浮葉発生は多かった。
(春季の塩分濃度が過去2年よりも低いことが要因として考えられる。)
→6月以降はヒシは自然減。
強風でヒシが抜けたことや、季節の進行とともに塩分濃度が上がり、ヒシ生育に適した環境ではなくなったことなどが理由と考えられる。
- 令和7年度もヒシの発生は少なく、3年連続で秋の占有面積率は0%。

12

R7年度のまとめと課題

【課題】

- ヒシの種子は数年間は休眠することも知られている。
特にゾーン1での大量発生を抑制するために、展葉が見られるなど早い時期で、ゾーン1での抜取りを行っていく必要がある。
- 春季～初夏・ヒシ発芽時期の環境（温度、塩分濃度）把握を継続し、ヒシの状況に応じて作業方針を検討していく必要がある。

13

R8年度 事業計画

- ガイドラインやマニュアルに基づいて抜取りを行い、ゾーン1でのヒシの低密度化・低密度状態の維持に向けた取組みを継続
- 春季～初夏の、ヒシ繁茂時期における環境の状態（温度、塩分濃度）を把握
- 春季からヒシの発芽状況を湖上調査等でモニタリングし、展葉直後からの除去を実施
- ヒシによる生態系機能も考慮し、ゾーン2・ゾーン3の抜取りは行わない方針
- 必要に応じて管理方法の改善策を検討

14

三方五湖自然再生協議会

環境に優しい農法事業



環境に優しい農法部会

[構成員]

部会長：尾崎晃一(農業者)

美しい鳥浜を創る会、田んぼと生き物育む会、地域の小学校、若狭下吉田営農組合、嶺南オーガニックプロジェクト、農業者(石地優、板場絹枝、長橋努、保志公平)、杉本亮(福井県立大学)、若狭町産業振興課、福井県(自然環境課、嶺南振興局二州農林部)ほか

※事務局:福井県里山里海湖研究所

R7年度の活動結果

水田からの濁水流出防止

目的:水田の肥料分(窒素とリン)による周辺水域(三方五湖、はず川など)の富栄養化や、水田の地力の低下を防ぐ

方法:水田の代かき(4~6月頃)で生じる濁り水の流出防止
代かき後2~3日静置、濁りを治めて排水

普及活動の実施

○視覚的アピール(のぼり旗の設置)



2024年4月25日撮影

2018年からスタート

R7年度の活動結果(総括)

項目	日程	内容等
濁水流出防止	4~6月	・普及活動(4~6月, のぼり)
環境に優しい農法の実施	通年	・「環境に優しい農法認証制度」の運営と普及活動
水質調査/ 生きもの調査	4~6月	・河川水の水質調査(濁度)(4~6月) ・環境 DNA 分析による水田の魚類相調査(6月)
勉強会の開催	1回	・自然農法国際研究開発センター
部会の開催	2回	・部会活動に関する情報共有や意見交換

R7年度の活動結果

三方五湖周辺水域の水質調査(4-6月)

□ 水田から流出する濁り水の影響を定期的に調査
2018年からスタート

R7年度の調査

- 採水8地点:部会員(農業者)
- 濁度分析:杉本亮(福井県立大学)



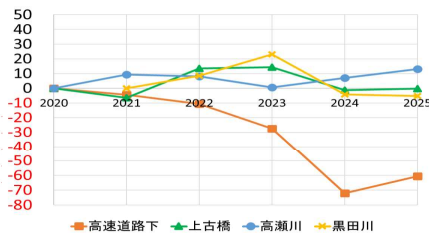
R7年度の活動結果

濁水流出防止活動の効果：濁度改善率の推移

改善 (%) 久々子湖周辺



改善 (%) はす川流域



改善 (%) 鳥羽川



改善率 (%) の算出方法

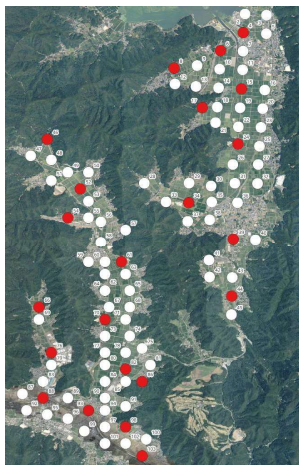
- ①各年の濁度の最大値を決定 (※外れ値は除く)
- ②当年を含む過去3年間の①の平均値を算出
- ③各調査地点ごとに、最初の年の②の値を基準として濁度が改善した割合を算出

- 全体的に改善率は停滞
- 活動の継続と周知が重要

R7年度の活動結果

環境 DNA 分析による生き物調査

「はす川」「北川」流域の「水田」に生息する魚類の調査



R7年度の活動結果

勉強会の開催

令和7年度 三方五湖自然再生協議会環境に優しい農法部会勉強会

「水稻有機栽培の抑草技術」 (自然農法国際研究センター)

日時 令和8年2月19日(木)
13:00~15:00
場所 若狭三方縄文博物館・講義室
※ 入場無料 事前予約不要

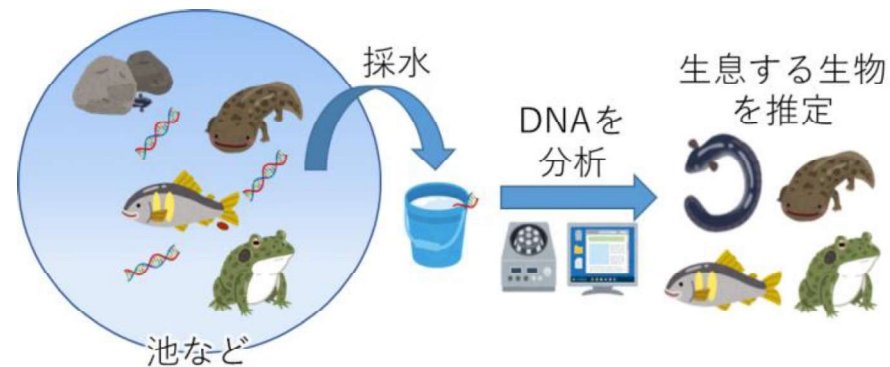
「水稻有機栽培の抑草技術」 — 技術の視点と、非栽培期間の管理の重要性 —

公益財団法人自然農法国際研究開発センター 三木孝昭

有機稲作は「大変」「難しい」という声が多く、栽培が安定しないケースが散見されます。その最大の原因は「雑草害」にあり、解決のための労力やコスト増が課題です。解決のためには、「技術ありき」から「状態づくり」への転換が必要と考えます。特定の技術(除草法など)を単に当てはめるだけでは、田んぼによって効果に差が出てしまいます。重要なのは、手法そのものに固執するのではなく、「イネが雑草との競争に勝ち、元気に育つ状態」を目指し、耕・施肥・水管理などの各技術を戦略的に組み合わせることです。画一的な方法論(耕起か不耕起か、施肥が無施肥か等)に縛られず、自分の田んぼの特性(気候や土壌、水環境)を知り、自身の環境や装備に最適な手法を選び抜くヒントを提供できればと思います。



環境 DNA 分析による生き物調査



https://www.city.kobe.lg.jp/e66324/yutakanaumi_dna.html

R7年度の活動結果

環境 DNA サンプリング (水田 87 ヲ所)



環境DNA分析による水田性カエル類の分布に対する地形および種間相互作用の影響評価

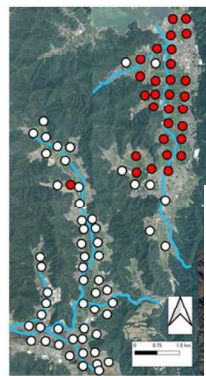
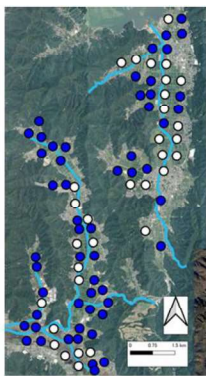
*小宮 彰紀(神戸大学) 武島 弘彦(福井県里山里海湖研) 辻丸 敦史(神戸大学) 源 利文(神戸大学)

○分布調査の結果

検出数

トノサマガエル
56/87 地点

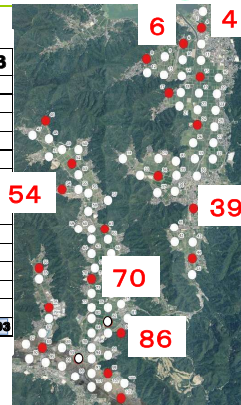
ナゴヤダルマガエル
30/87 地点



R7年度の活動結果

環境 DNA 分析による水田の魚類調査 (● 20 ヲ所)

魚種	4	6	8	15	17	24	34	39	44	46	52	54	61	66	70	76	86	88	93	103
ドジョウ	6330	37257						17618							3012		6934			
フナ属の一種	22963	7376																		
メカハヤ									38713				122							
ヨイ	3347																			
ヨシノボリ属の一種	2114																			
ボラ	1681																			
メナダ	69																			
ウキゴリ	68																			
トマス	31																			
カワバタモロコ	18																			
アブラハヤ																	448			
エツゴ											986									
アユ																				
チテブ属の一種								1344												35593



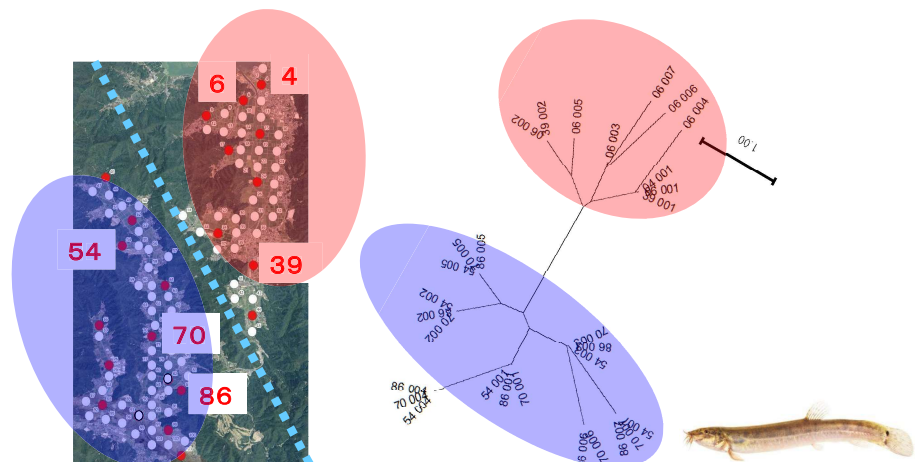
- 20 ヲ所中 9 ヲ所で魚類を検出
- 水田魚道がある「地点 4」で多魚種を検出
- 20 ヲ所中 6 ヲ所で「ドジョウ」を検出



<https://zukan.com/fish/internal1405>

R7年度の活動結果

環境 DNA 分析による「ドジョウ」の地域差



<https://zukan.com/fish/internal1405>

「ドジョウ」は「三十三間山」を挟んで「はす川」「北川」流域間で DNA のタイプが違う

R7年度の活動結果

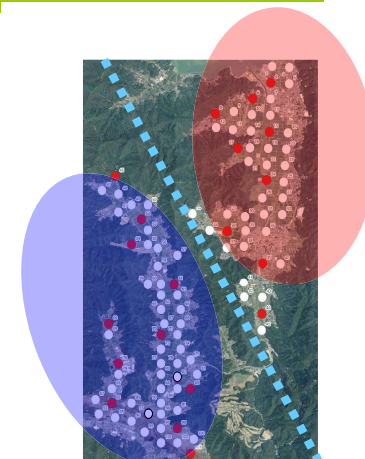
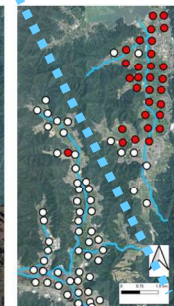
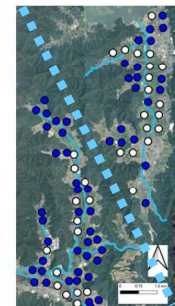
環境 DNA 分析による生き物調査

○分布調査の結果

検出数

トノサマガエル
56/87 地点

ナゴヤダルマガエル
30/87 地点



トノサマガエル

ナゴヤダルマガエル



ドジョウ

三十三間山をはさんだ生物の違いに注目

<https://zukan.com/fish/internal1405>

実施計画—事業成果（R7年度）の評価

実施計画での目標 （長期目標）	事業成果（R7年度）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した認証制度の拡大と定着 ・濁水の流出減少，河川水の清浄化 	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境に優しい農法認証制度」の普及活動 ・認証制度：7（前年 10）団体・個人，18.5 ha の農地（水田）を認証（前年比0.9倍） ・濁水流出防止の継続 ・河川の水質調査の継続 ・環境DNA分析による生き物調査 ・勉強会の実施 ・他団体への活動紹介（川越市農業委員会）

R8年度 事業計画

第2期 事業実施計画 【短期目標（R6～R8）】

- 濁水防止の普及・徹底 ○河川水の調査継続 ○生きもの調査の継続
- 土壌調査の継続と部会員の診断能力育成 ○認証制度の普及・拡大
- 地域に根差した環境に優しい農法の認証制度に向けての新たな検討

項目	日程	内容等
濁水流出防止	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・普及活動 ・河川水の水質調査の継続（濁度）
環境に優しい農法の実施	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しい農法認証制度の運営と普及活動，認証米の給食への提供.
生きもの調査	10地点年 1 回程度	<ul style="list-style-type: none"> ・環境DNA分析で水田の魚類相調査
勉強会	数回	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しい農法・農薬の問題など

令和8年3月20日(金・祝)
三方五湖自然再生協議会 全体会

三方五湖自然再生協議会

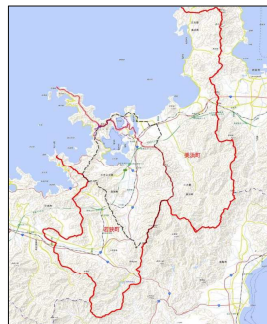
三方五湖を活用した環境教育

環境教育部会

[構成員]

部会長：小嶋 明男(日本野鳥の会福井県)

三方郡(美浜町)小学校教育研究会理科部会、若狭町教育研究会環境教育部会、美浜環境パートナーシップ会議、日本野鳥の会福井県、ハスプロジェクト推進協議会、(一社)三方五湖青年会議所、(一社)Switch Switch、富田涼都(静岡大学)、美浜町、若狭町、福井県
※事務局：福井県海浜自然センター



R7年度の活動結果(総括) ②

項目	日程	内容等
子どもラムサールクラブ活動	通年	・小中学生の子どもたちが、年間を通し水辺や森の生き物観察などの野外活動を行い、三方五湖や里山里海湖の自然に親しむ
昔の水辺の風景画募集事業	7月～12月	・美浜町・若狭町の小学生を対象に、「水辺のくらし」をテーマに作品を募集 ・作品の展示(若狭町、美浜町) ・原画をデータ化し、「みんなの三方五湖マップ」サイトにより公開
自然体験活動(学校、各部会員)	随時	・部会を構成する各団体が、自然環境を題材にした環境教育活動を実施

R7年度の活動結果(総括) ①

項目	日程	内容等
部会(第1回)	5月27日	・令和7年度活動計画
研修会	8月26日	・テーマ:「三方五湖流域の自然再生への道を子ども・地域の人々と共に探る」 講師:梅の里小学校 教諭 谷保裕子氏 参加者:31名
意見交換会	8月26日	・昔の水辺の風景画募集事業について
部会(第2回)	12月16日	・令和7年度活動報告 ・令和8年度活動の取組

R7年度の活動結果

□ 子どもラムサールクラブ①

三方五湖の自然再生を担う次世代育成を目的として、自然観察活動を実施
・令和7年度クラブ員 若狭町・美浜町の小中学生22名
・年9回活動実施

実施日	場所	内容	参加人数
5/16(金)	若狭町中央公民館(リブラ若狭)	クラブ員顔合わせ、自己紹介、年間計画の確認	19名
5/24(土)	若狭町鳥浜 山古川	三方湖にそそぐ川の生き物を観察	14名
6/28(土)	美浜町久々子 紺屋川	久々子湖にそそぐ川の生き物を観察	16名
7/20(日)	若狭町食見 磯浜	磯浜の生き物を観察	15名
10/18(土)	三方青年の家	星座盤を使った星座探しと、秋の味覚を体験(焼羊)	15名
11/22(土)	若狭町中央公民館(リブラ若狭)	ラムサール湿地クラブ交流会に向けた発表の準備(ラムサール湿地クラブ:宍道湖、中海、琵琶湖、三方五湖)	6名
11/30(日)	滋賀県長浜市 湖北野鳥センター	ラムサール湿地クラブ交流会に参加し、クラブ活動内容を発表。湖畔とオオワシの観察を通じて、他のクラブと交流	11名
1/17(土)	美浜町総合体育館	全体会に向けた発表の練習	9名
3/20(金・祝)	三方青年の家	全体会において一年間のクラブ活動内容を発表	

R7年度の活動結果

□ 子どもラムサールクラブ②



5/16 クラブ員顔合わせ



5/24 山古川の生き物観察



6/28 紺屋川の生き物観察



7/20 磯浜の生き物観察



10/18 星座を探す・秋を味わう



11/30 穴道湖、中海、琵琶湖、三方五湖各クラブの交流会 (滋賀県 湖北野鳥センター)



R7年度の活動結果

□ 昔の水辺の風景画募集事業

募集時期 7月

対象 美浜町・若狭町の小学生

テーマ 「昔の水辺の暮らし」

応募数: 46点 (6校)

展示: ①場所 福井県海浜自然センター企画展示室

期間 令和7年9月20日～10月26日

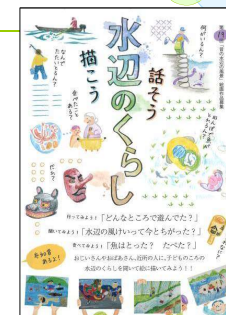
②場所 三方ショッピングセンターレピア

期間 令和7年11月27日～12月11日

③場所 美浜町生涯学習センターなびあす

期間 令和7年12月16日～12月25日

WEB公開: 絵画をデータ化し、「みんなの三方五湖マップ」サイトに掲載予定



募集チラシ



作品展示

R7年度の活動結果

□ 若狭町の小中学校①

<p>三方小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田んぼ内の水路にコイやフナの産卵床を投入、田植え・稲刈り (参加人数23名) ・串小川にすむ生き物調査 (参加人数20名) 		<p>気山小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシアカツバメの観察 ・営巣、子育ての様子の観察、エサの採集、ツバメの子育て応援表彰 (参加人数15名) ・ウナギ筒漁の見学・試食 (参加人数36名) 	
<p>梅の里小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フナ・コイ・タモロコシの稚魚放流体験学習 (参加人数13名) ・地域の清掃活動 (参加人数23名) 		<p>みそみ小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそみ地域の生き物調査 (参加人数10名) ・三十三間山学習会 (参加人数88名) 	
<p>鳥羽小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植え体験 (参加人数33名) ・鳥羽川の生き物調査 ・捕まえた生き物の観察、飼育 (参加人数18名) 		<p>上中小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬米作り(代かき、田植え、草取り、水やり、稲刈り、脱穀、精米、しめ縄作り) (参加人数17名) ・牛乳パックのリサイクル (参加人数93名) 	

R7年度の活動結果

□ 若狭町の小中学校②

<p>三宅小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きれいな水をつなげる」下水処理場を見学 (参加人数10名) ・SDGs出前授業 (参加人数37名) 		<p>野木小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野木川の生き物観察 (参加人数29名) ・シーカヤック体験 ・飯盒炊爨(カレーライスづくり) ・星空観察 (参加人数10名) ・磯観察 (参加人数10名) 	
<p>三方中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三方五湖の生態調査 ・漁業組合、野鳥の会の方を招いて出前授業を実施 (参加人数14名) ・段ボールコンポストを製作、環境へ配慮した肥料づくり (参加人数3名) 		<p>上中中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッター訓練やオリエンテーリングを通して若狭の自然について学ぶ (参加人数59名) ・三宅地区にある清水川の生き物調査 (参加人数5名) 	

R7年度の活動結果

□ 美浜町の小学校

□ 美浜中央小学校

- 4/30 「校区の宝発見」耳川あゆの稚魚放流 参加人数：3年生21名
- 11/4 「校区の宝発見」新庄の山の散策 参加人数：3年生21名
- 11/28 「行方久兵衛と浦見運河」蓄電船乗船、参加人数：4年生24名
浦見運河見学、野鳥観察



□ 美浜西小学校

- 5/21 海ゴミの現状を知る、海ゴミ調査 参加人数：6年生23名
- 7/2 「校区のお宝調査」しじみについて 参加人数：3年生21名
教えてもらう、シジミ汁調理
- 10/17 獣害について知る、猟師の話聞き、 参加人数：3年生21名
命との向き合い方を考える



□ 美浜東小学校

- 10/24 ボート体験 参加人数：4・5年生26名
- 10/25 ウナギ漁体験 参加人数：4・5年生26名
- 12/11 浦見運河見学 参加人数：4年生13名



R7年度の活動結果

□ 日本野鳥の会福井県

【福井県海浜自然センター主催事業】

- 11/29 ビギナーのための探鳥会 参加人数：14名
- 2/1 カモウオッチングin久々子湖 参加人数：18名



2/1 カモウオッチング
in久々子湖

【福井県里山里海湖研究所ふるさと研究員】

- 気山小学校 コシアカツバメの観察、
久々子湖でバードウォッチング
宇波西川・久々子湖岸の生き物観察
- 三方中学校 三方五湖の魚類と鳥類の変化について
- 明倫保育園 田植え、稲刈り
- 三方青年の家 三方湖南岸での野鳥と外来生物観察会
サマチャレンジ



コシアカツバメ



コシアカツバメ
農作り体験

R7年度の活動結果

□ ハスプロジェクト推進協議会

- 5～10月 生きもの豊かなたんぼづくりのモデル田
場所：かや田(若狭町気山) 参加人数：10名
- 6/1 はす川生き物観察会
(福井県海浜自然センター主催事業への支援)
- 12/17 稲ワークショップ・縄ない(三方児童クラブ)
(富田涼都氏、若狭町教育委員会との連携) 参加人数：25名
三方児童クラブの子どもたち、地域住民との協働による稲ワークショップ
「昔の水辺」で行われていた、稲の「ワラ」を使って縄ないをするなど、環境(水田)と
生活の関連を体験的に学ぶ。

□ 富田涼都(静岡大学)

- 12/17 ワークショップ「しめ縄づくり」(三方児童クラブ)



R7年度の活動結果

□ 福井県里山里海湖研究所

- 6/7 体験講座「葉っぱのエコバッグをつくろう！」 場所：三方青年の家 参加人数：33名
- 5/15、6/18、8/8、9/14、1/21
学校教育プログラム「野鳥観察をしよう」「川の生き物調査」
場所：三方湖畔、中川(野木)、自然観察棟 参加人数：139名
- 8/2、11/10、1/11
森の工作 場所：サンドーム福井、小学校、自然観察棟 参加人数：160名

□ 福井県海浜自然センター

<主催事業 三方五湖自然教室>

- 6/29 たんぼで魚の赤ちゃんをつかまえよう
若狭町鳥浜の水田 参加人数：19名
- 12/6 伝統漁法 たたき網に挑戦しよう
三方湖周辺 参加人数：15名
- 11～2月 バードウォッチング(2回)



6/29 たんぼで魚の赤
ちゃんをつかまえよう



12/6 伝統漁法 たたき
網に挑戦しよう

実施計画—事業成果（R7年度）の評価

実施計画での目標 （長期目標）	事業成果（R7年度）
新たな10代委員等若い協議会委員の登録	・子どもラムサールクラブを通じて、若い協議会委員を育成中
学校教育及び社会教育における三方五湖とその周囲の農地や河川、コウノトリに関連した継続的な環境教育の実施	・各部会員は目標の達成に向け、R7年度も継続的な環境教育の取組みを実施 →R8年度以降も継続して実施

R8年度 事業計画

第2期 事業実施計画 ○昔の水辺の絵画の活用
【中期目標（R6～R8）】 ○子どもラムサールクラブ参加者の増加

項目	日程	内容等
三方五湖ラムサールクラブの活動	通年	・クラブ員募集（4月） ・自然観察などの野外活動を実施（5月～12月） ・活動報告まとめ、発表（1月～3月）
昔の水辺の風景画募集事業	通年	・美浜町・若狭町の小学生を対象に作品募集（7月） ・応募作品の展示（9月～） ・絵画の活用法の検討
自然体験活動 （学校、各部会員）	随時	・部会を構成する各団体が自然環境を題材にした環境教育活動を実施

R8年度 事業計画

□ 三方五湖ラムサールクラブ

コンセプト 水辺や森で活動する楽しさを味わい、生きものつながりを学ぶ

目的 農業や漁業と森里川海(湖)の連携を体験できる自然環境学習を通して、生態系サービスの理解醸成を図り、自然再生の担い手を確保する。また、地域の自然を活用した多世代でのSDG^s人材の育成にもつなげる。

募集人数 25人程度

入会金 3,000円

応募資格 美浜・若狭両町の小学1年生から中学3年生で、生きものや三方五湖の里山里海湖の自然に関心がある人

協力依頼 日本野鳥の会福井県福井県淡水魚研究会 湖北野鳥センター 福井県海浜自然センター 等

実施月	内容（予定）
5月	生き物クイズと自己紹介
5月	湖にそそぐ川にすむ生き物観察Ⅰ
6月	湖にそそぐ川にすむ生き物観察Ⅱ
7月	「こぼたん」と楽しく交流 磯浜にすむ生き物観察
10月	水を生み出すブナの森の観察 プチ登山
12月	田んぼでハクチョウウオッチング
1月	しおりづくりと発表準備
3月	再生協全体会で1年間の活動発表

1

令和8年3月20日(金)
三方五湖自然再生協議会 全体会

三方五湖自然再生協議会

シジミのなぎさ再生事業



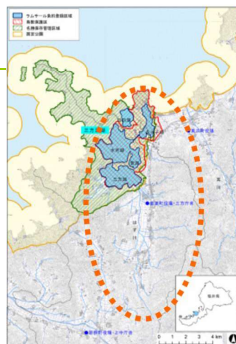
シジミのなぎさ部会

[構成員]

部会長: 宮本康(福井県里山里海湖研究所)

副部会長: 宮田一由(南西郷漁業協同組合)、田辺善治(海山漁業協同組合)
南西郷漁業協同組合、海山漁業協同組合、ラ・じみ、青海忠久(福井県立大学
名誉教授)、吉田丈人(東京大学准教授)、富永修(福井県立大学教授)、福井県、
若狭町、美浜町

※ 事務局: 美浜町産業政策課



2

7年度の活動結果(総括)

分類	項目	日程	内容等
部会	第1回会議 [会場] 美浜町役場	R7.8.25	●令和7年度の事業計画について
	第2回会議 [会場] 美浜町役場	R8.2.24	●実施事業及び調査結果について
事業	なぎさの再生 南西郷漁業協同組合・海山漁業協同組合 美浜町産業政策課・若狭町農林水産課 若狭町建設課・福井県自然環境課 県教養土木事務所・県里山里海湖研究所	R7.1.2 R8.3	●水月湖に195㎡の歩道工事土砂を搬入・整地 ●久々子湖に約250㎡の河川浚渫土砂を搬入・整地
	なぎさの保全と活用 南西郷漁協・海山漁協、 美浜町産業政策課・若狭町農林水産課	R7.4~	●シジミ食害対策(鴨除けネット設置) ●環境学習の実施
	なぎさの維持管理(海藻・ヒシ対策) 南西郷漁協・海山漁協、美浜町産業政策課・ 若狭町農林水産課・県里山里海湖研究所ほか	R7.4~	●ヒシ、海藻などの大量繁茂がなかった (作業実績なし)
調査等	シジミ資源調査 南西郷漁業協同組合・海山漁業協同組合	R7.9~ R8.2	●シジミ個体群の殻長組成を調査 (久々子湖・水月湖、定点調査)
	再生なぎさのモニタリング 県里山里海湖研究所・国立環境研究所など	R7.4~	●地形変化・環境・ベントスのモニタリング (久々子湖・水月湖)

3

7年度の活動結果: ① 部会

- シジミのなぎさ部会第1回会議 令和7年8月25日(月)
 - ◆ 令和7年度事業計画について
- シジミのなぎさ部会第2回会議 令和8年2月24日(火)
 - ◆ 令和7年度活動の総括等について
 - ◆ 令和8年度事業計画(活動方針)について



第1回会議の様子



第2回会議の様子

4

7年度の活動結果: ② 事業

- なぎさの再生(久々子湖): 浚渫土砂を搬入して
重機 + 人力により整地



5

7年度の活動結果：② 事業

- なぎさの再生(水月湖)：国道27号歩道工事での土砂を搬入して重機により整地



6

7年度の活動結果：② 事業

- new!** □ なぎさの保全と活用(環境学習)
 - ▶ 南西郷漁協：3件(計59人)、海山漁協2件(計45人)



久々子湖での環境学習(南西郷漁協)



水月湖での環境学習(海山漁協)

7

実施計画一事業成果(7年度)の評価

実施計画での目標 (長期目標)	事業成果(R07年度)
久々子湖面積の10% (12.5ha)再生及び水月湖・ 昔湖のなぎさ再生	なぎさの再生(しじみの生息環境整備)
	H25 久々子湖 5,000㎡(0.50ha)総合体育館前
	H26 久々子湖 2,500㎡(0.25ha)美方高校艇庫前
	R1 久々子湖 10,000㎡(1.00ha)宇波西川河口付近
	R2 久々子湖 400㎡(0.04ha)南岸東部
	R2 水月湖 1,100㎡(0.11ha)西岸
	R3 久々子湖 450㎡(0.04ha)南岸東部
	R3 水月湖 820㎡(0.08ha)西岸
	R4 水月湖 740㎡(0.07ha)西岸
	R5 水月湖 400㎡(0.04ha)西岸
	R6 久々子湖 2,280㎡(0.23ha)向山下
	R7 久々子湖 実施済940㎡(0.09ha)
	水月湖 実施済172.5㎡(0.02ha)

※ 実施計画での目標・・・長期目標(平成28年度～)に掲げた目標

8

7年度の活動結果：③ 調査等

- シジミ資源調査(密度/委託事業)
 - ▶ 久々子湖と水月湖の各4ヶ所で20x20cmのシジミを採集、全個体の殻長を測定



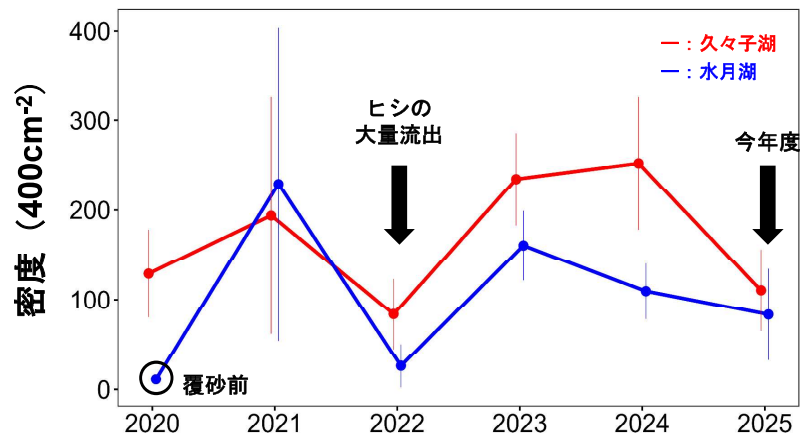
金属製の杓を底土に挿す

底土の土砂を採る

7年度の活動結果：③ 調査等

シジミ資源調査（密度）

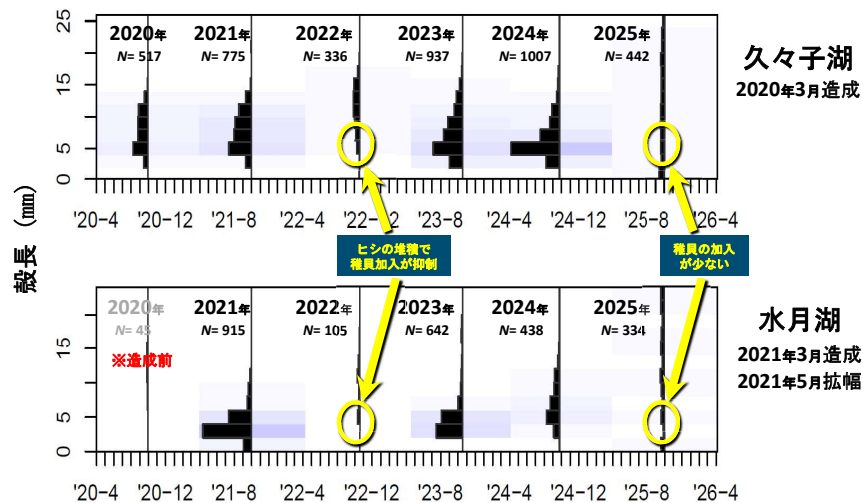
➡ 密度の年変化は湖間で同調、今年度の資源密度は過去6年間で2番目の低レベル



7年度の活動結果：③ 調査等

シジミ資源調査（殻長組成）

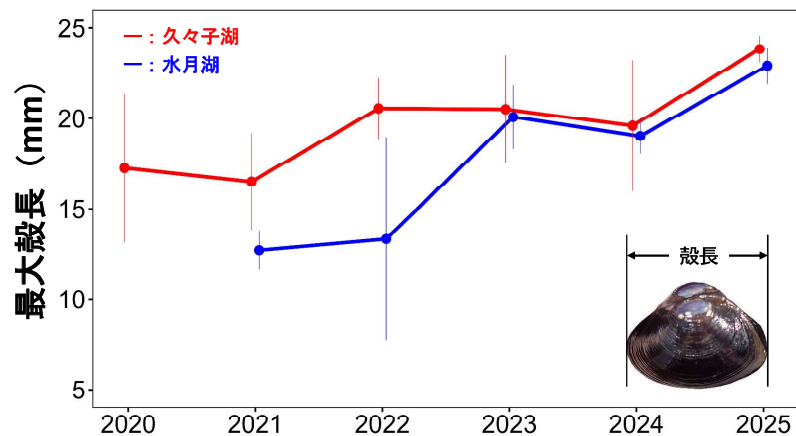
➡ 今年度は久々子湖・水月湖ともに稚貝の加入が非常に少ない！



7年度の活動結果：③ 調査等

シジミ資源調査（殻長組成）

➡ 今年度の最も大きい個体（地点毎）は過去最大➡ 養浜で長生きが可能になった！

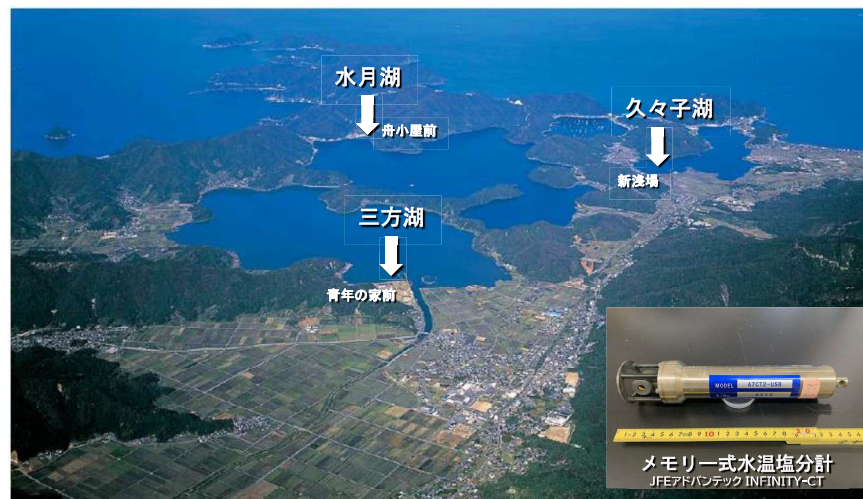


7年度の活動結果：③ 調査等

new!

再生なぎさの環境：1時間毎の水温・塩分の変化

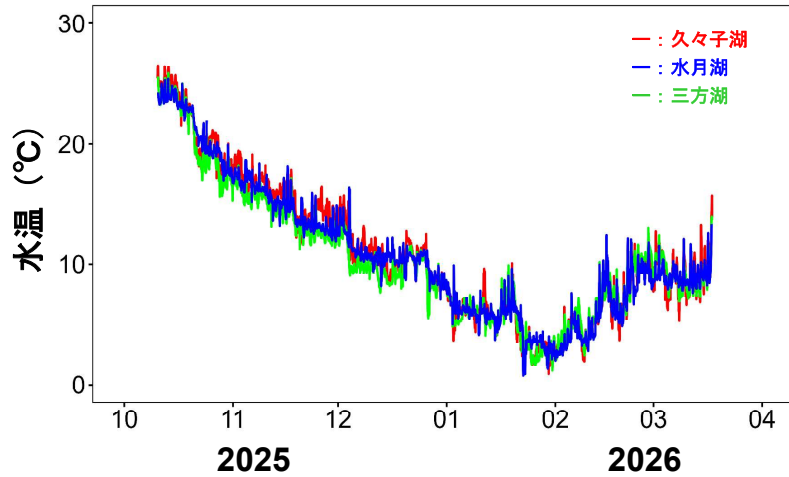
➡ 3つのなぎさ護岸の水深50cm（9月）に水温塩分計を設置、2~3週間毎に回収



7年度の活動結果：③ 調査等

new! 再生なぎさの環境：1時間毎の水温変化

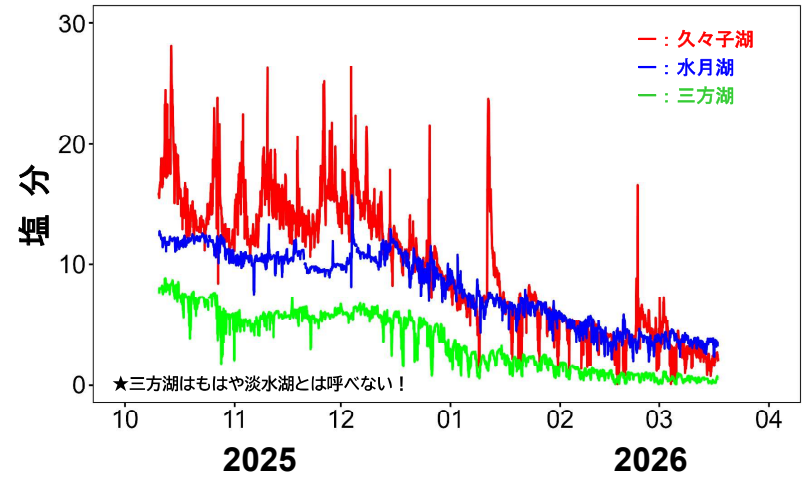
➡ 3つの湖間で水温に目立った違いはない



7年度の活動結果：③ 調査等

new! 再生なぎさの環境：1時間毎の塩分変化

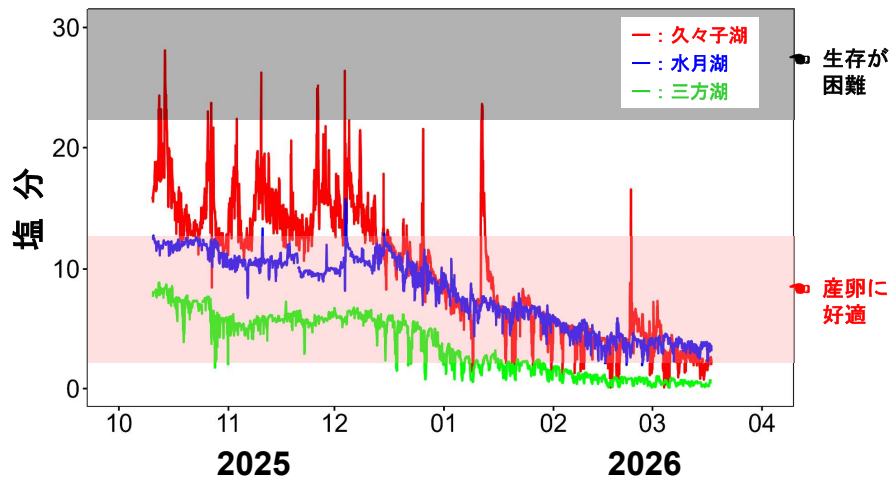
➡ 海に近い湖ほど塩分が高く、塩分変動が大きい（海面水位の影響大）



7年度の活動結果：③ 調査等

new! 再生なぎさの環境：1時間毎の塩分変化

➡ 久々子湖の塩分環境はヤマトシジミにとって厳しい（結論には春～夏が必要）



7年度の活動結果：③ 調査等

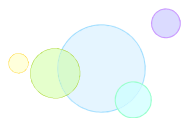
new! 再生なぎさの環境：マクロベントス群集

➡ 従来の久々子湖の優占種（赤字）が湖内で減り、上流側の湖で増えている

湖(地点名)	2025年9月		2025年12月	
久々子湖 (新浅場)	① コケゴカイ(多)	71.0±14.4%	① コケゴカイ(多)	26.5±24.3%
	② ツツオオフェリア(多)	7.1±3.9%	② ヒメヤマトカワゴカイ(多)	23.4±16.0%
	③ ヤマトシジミ(二)	6.9±3.9%	③ カワザンショウ(巻)	9.3±8.4%
水月湖 (船小屋前)	① カワザンショウ(巻)	26.7±25.4%	① カワグチツボ(巻)	24.5±17.9%
	② ヤマトシジミ(二)	22.5±25.8%	② アシナガゴカイ(多)	22.6± 7.0%
	③ ヒメヤマトカワゴカイ(多)	15.3±20.3%	③ キャビテラ属の一種(多)	18.1±14.7%
三方湖 (青年の家前)	① ノトマスタス属の一種(多)	87.0±18.5%	① ヒメヤマトカワゴカイ(多)	83.1± 9.3%
	② シミズメリタヨコエビ(端)	7.3±16.3%	② ノトマスタス属の一種(多)	9.4±12.9%
	③ カワザンショウ(巻)	1.8±4.1%	③ ヘテロマスタス属の一種(多)	5.0± 7.7%

†巻：巻貝類，二：二枚貝類，多：多毛類，端：端脚類(ヨコエビの仲間)，‡個体密度(177cm²あたり)の平均値±標準偏差(n=5)

8年度 事業計画



分類	項目	日程	内容等
部会	第1回会議	R8.5	●令和8年度事業計画等について
	第2回会議	R9.2	●令和8年度事業の総括
事業	なぎさ再生手引きの作成 南西郷漁協・海山漁協・美浜町産業政策課・若狭町農林水産課・県里山里海湖研究所	R8.4~	●今後のなぎさ再生に係る調整 (久々子湖・水月湖)
	なぎさの再生 南西郷漁業協同組合・海山漁業協同組合・美浜町産業政策課・若狭町農林水産課・福井県軟質土木事務所・県里山里海湖研究所	R8.4~	●流入河川の浚渫状況の確認 ●各漁協の受入ニーズの確認 ●浚渫状況とニーズに応じてなぎさ再生
	なぎさの保全と利活用 南西郷漁業協同組合・海山漁業協同組合・美浜町産業政策課・若狭町農林水産課	R8.4~	●資源繁殖のための親貝放流 ●シジミ食害対策(鴨除けネット設置) ●環境学習の実施
	なぎさの維持管理 南西郷漁協・海山漁協・美浜町産業政策課・若狭町農林水産課・県里山里海湖研究所ほか	R8.4~	●発生した海藻の撤去・処分など ●ヨシの管理 (●ヒシの流入対策)
調査等	シジミ資源調査 南西郷漁業協同組合・海山漁業協同組合	R8.9	●シジミ個体群の殻長組成を調査 (久々子湖・水月湖, 定点調査)
	再生なぎさのモニタリング 県里山里海湖研究所・国立環境研究所ほか	R8.4~	●地形変化・環境・ベントスの調査 (久々子湖・水月湖)